

イメージを形に

クラフトゼミ
A2201024 古川 侑依

[研究概要]

宮沢賢治の童話集からイメージした漆プレートの制作を通し、レリーフ的表現の可能性など漆芸技法の研究を行います。

[背景・目的]

私は、昔から本を読むことが好きでした。現代には漆よりも扱いやすい塗料が、紙の書籍よりも持ち運びに便利な電子書籍があります。しかし、漆と紙の書籍のどちらにも他には変えられない魅力があり、それを少しでも伝えることも大切なことではないかと考えます。

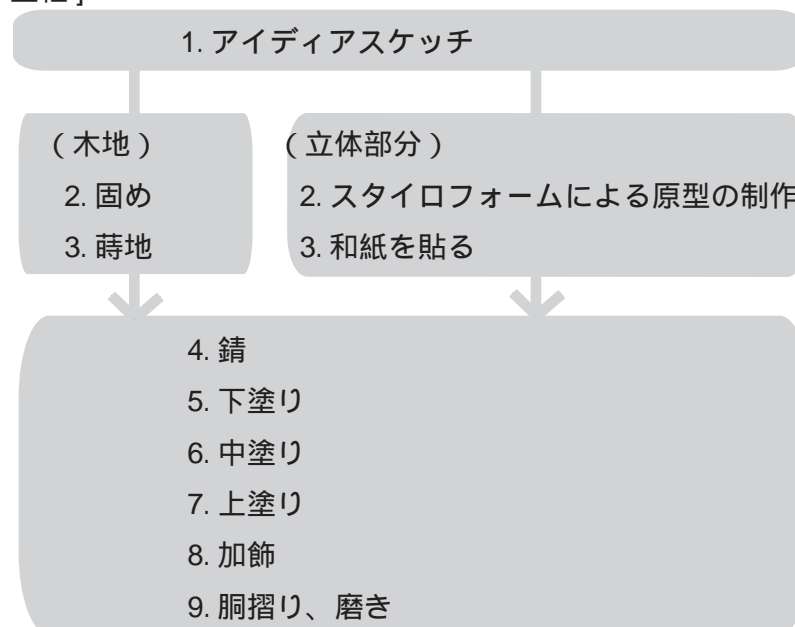
そこで、宮沢賢治の童話集のイメージを漆を用いて制作し、新たな漆芸表現について研究したいと思いました。宮沢賢治の童話集を選んだ理由は、形にしたいイメージがあったからです。震災後、しばらく不安で眠れない時期がありました。そんなとき、精神的な支えになっていたのが本を読むことでした。当時たまたま読んでいたのが宮沢賢治の童話集だったのですが、本の力のようなものが感じられたそのときのイメージを、漆を使って形にしたいと思い選びました。

[デザイン]

レリーフ的表現を活用し、様々な表情が感じられるプレート作品を3点制作します。

- ・使用素材 漆、木板、スタイロフォーム、和紙
- ・サイズ 850 (mm) × 250(mm) × 3 点

[制作工程]



[木地]



固め



下地



錆

[立体部分]



和紙を貼る



下塗り

[考察・感想]

この作品を制作するにあたり、レリーフ的表現に挑戦したことと、今まで制作した作品の中で一番大きいこともあり、錆を思い通りの形に付けられなかったり、立体部分の原型に和紙を貼る作業では、スタイロと和紙の間に空気が入ってしまったりと、一つ一つの工程に時間がかかり、苦戦しました。しかし、少しずつ形が出来上がるにつれて、充実感・達成感を得ることができました。

2年間、漆を通して「ものづくり」をまなぶことによって、今まで見えていなかったものが見えたり、興味のなかったものが気になるようになっていたり、自分の視野が広がったような気がします。

卒業研究を通して、改めて、漆の良さや自分が本を読んで感じたことなど、人に伝えることの難しさを感じるとともに、漆の奥深さやものづくりの大変さを実感しました。この作品で、私の中のイメージだけでなく、漆や本の良さの片鱗でも伝えればと思います。